

第 2 1 回千葉県資源評価検討会議 会議録

- 1 開催日時 令和 6 年 1 2 月 1 6 日 (月) 午後 1 時 3 0 分～午後 1 5 時 4 5 分
- 2 開催場所 県庁本庁舎 1 6 階 農林水産部会議室
- 3 出席者 <構成員>
東北大学大学院農学研究科 教授 片山 知史
県農林水産部水産局漁業資源課長 原 知比古
県水産総合研究センター次長 (企画調整室長事務取扱) 玉井 雅史
<その他>
県関係職員 1 6 名

4 検討事項

- (1) 令和 6 年度千葉県沿岸水産資源の資源評価 (案) について
- (2) 資源管理協定の取組の効果の中間検証 (案) について
- (3) その他

5 検討事項の概要及び検討の結果

- (1) 令和 6 年度千葉県沿岸水産資源の資源評価 (案) について

事務局から、令和 6 年度の資源評価対象種について概要説明及び資源管理協定の取組の効果の中間検証に向けた評価票等の体裁修正について説明があった後、水産総合研究センター担当者から資源評価票、資源評価票に準ずる資料、漁獲量推移等の資料についてそれぞれ説明があった。構成員からの主な意見等は以下のとおり。

- ・構成員から、キンメダイの CPUE について、出港後に潮流が速く操業できなかった場合、CPUE に漁獲量 0 として反映されてしまうのか質問があり、担当者から、水揚げが 0 であれば反映させていない旨、回答があった。
- ・構成員から、マアナゴの標本船数が年により変動しているが、数を固定できないか質問があり、担当者から、依頼している漁業者が変わっているため難しい旨、回答があった。
- ・構成員から、クロアワビに関して、今回の評価では、資源は維持されている結果であるが、今期の場合は、7～8 月の操業日数が少なく、9 月に操業日数が多く漁獲も多かったので CPUE が高く出やすいと想定されるが、漁業者も資源は維持されている認識を持っているか質問があり、担当者から、操業日数が少ないと CPUE は高くなりやすいことは課題であるが、昨年度比で資源が減ったと感じている情報はない旨、説明があった。
- ・構成員から、タチウオは、東京湾とそれ以外の地区で資源の動向が異なることから、

評価票には、全県の漁獲量を参考情報として記載し、評価は東京湾地区及びその他の地区で分ける方法について提案があった。

- ・構成員から、バイの漁獲状況について質問があり、担当者から、近年は内房地区の漁獲が増加している旨、説明があった。
- ・構成員から、その他、体裁等に係る軽微な修正について、意見があった。

(2) 資源管理協定の取組の効果の中間検証（案）について

事務局から、資源管理協定の取組の効果の検証について概要説明を行った後、令和6年度に中間検証が必要な協定に係る検証資料について、魚種別に説明があった。

構成員からの主な意見等は以下のとおり。

- ・構成員から、文章の表現として、理解しづらい部分やより適切な表現が考えられる部分等があるため、関連部分については検討が必要である旨、意見があった。
- ・構成員から、全魚種でCPUEを算出できないか確認があり、事務局から、現状、困難である旨、回答があった。

(3) その他

- ・特になし

6 その他

事務局から、本検討会議設置要綱の期間更新について説明があった。

以上